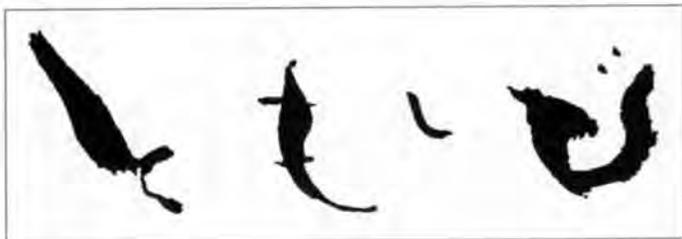


大学婦人協会東京支部

2006. 3
第39号



子育て支援と間接差別の禁止



JAUW会長 今井 けい

- ・子育て支援と間接差別の禁止 (1P)
- ・子育て支援情報調査 (その2) (2P)
- ・エッセイ「四姑娘のお花畑」根岸愛子氏 (4P)

東京支部は二〇〇三年度の全国セミナーで「ICTと子育て支援情報」と題する興味深い調査を発表された。調査対象の数(23区と周辺5市)といい、内容といい、密度の高い優れた調査で、二〇〇五年度にさらに継続されていることは誠に喜ばしい。自治体間に存在する情報提供の数と質の格差。同一自治体内でのタテ割り行政による情報の不統一など鋭い指摘もあり、これらは是非各自治体に提示したい情報である。

調査では部分的だが母親の職場環境についても調査しているが、今後求められるテーマである。自治体やボランティア団体による子育て支援は地に足の着いた対策であるが、同時に国レベルでの政策が不可欠である。

る。少子化の危機が叫ばれる中で緊急に必要なことは、まず男女労働者の労働時間の短縮であり、そのため国と企業の適切な対策である。子育てには豊かな育児時間が必要なのである。

第二は「パート」や「契約」など不安定な雇用形態への対応である。現在女性雇用の約半分が「パート」や「契約」である。目下均等法制定20年を機にその改定がはかられ「間接差別禁止」が盛り込まれることになった。しかしその内容が①身長・体重など身体上の差②昇進に転勤を条件としない、などではあまりに貧弱である。今問題視されている「間接差別」とは女性がパートなど非正規職に圧倒的に多いことである。しかもパートなどの賃金は著しく低い。常勤の男性と同種の仕事であっても女性の方がパートというだけで給与・昇給等で大きく異なる。このような雇用形態による男女差別が「間接差別」の一つであり、その禁止が求められるのである。パートの労働時間が短ければ単位労働時間の賃金を常勤と同等にすればよい。それだけでもパートの賃金が今より上り、「子どもを生み育てたい」という女性のニーズに込めることになるのである。

事業報告・予定

7・13	子育て支援調査研究開始
9・27	演奏会「薩摩琵琶と二十五絃箏の会」 荒井靖水氏
10・24	第6回「中東女性交流に向けての勉強会」(共催) 荒井美帆氏
11・1	「イスラム法と女性の自立」 講師 塩尻和子氏
12・1	見学会「日本銀行本店・金庫の見学Ⅱ」 講師 山森直子氏
12・10	講演会「目は口ほどにものを言う」講師 山森直子氏
12・10	国際奨学生報告会(共催) 自然科学講演会(共催)
12・10	「創業基礎科学にむけた有機化学―くすりはどの様に創られるのか―」 講師 中川昌子氏
1・7	「新春の集い」 国内奨学金贈呈式
2・12	「日本・中東女性交流」 東京シンポジウム
2・13	東京奨学生報告会(共催)
2・20	「ともしび」第39号発行
3・1	
4・8	JAUW第49回通常総会
4・15	於 秋田 東京支部総会 記念講演「ジェンダー・叩きの背後には―子育て支援策の視点から―」 講師 藤原房子氏
5・17	講演会 講師 小林亜起子氏
6月	見学会 以後の事業は追ってお知らせします

〈東京支部調査研究報告〉

情報十分届いているのか？
子育て支援情報調査(その2)

調査研究班 遠藤 理枝

2003年度全国セミナーにおいて、東京支部は東京23区と5市(清瀬、小平、立川、府中、三鷹)の子育てに主として保育の支援情報のインターネット上での開示実態と自治体間格差、情報利用の実態等について調査を行い、問題のあぶり出しと提言を行った。その時点では、情報検索の容易性、情報の縦割り構造、緊急時の支援情報の充実、自治体間格差(情報および支援策)などが問題点として浮かび上がってきた。

前回の調査から2年が経過し、国・地方自治体としても子育て支援策やサービスをさらに充実させてきている。そこで、問題点の改善状況やさらなる問題提起、提言を行うために、追跡する調査を行った。

この2年間の情報の充実はインターネット社会の進化に伴い長足の進歩が見られた。情報内容の充実化のみならず自治体のHP上での開示水準の上昇も著しく、HP自体も見やすく検索し易くなってきた。

また、前回では、子育て中の母親自身の支援対策の不備が目立っていたが、その充実化には目を見張るものがある。支援策のメニューも豊富になっており、情報量も増加してきている。しかし、情報量が多くなればその系統化や整備が必要となる。

今回の調査では、情報開示が縦割りでありネットワーク化が十分でないので検索に手間取る、利用する支援(策)間に情報開示格差があり利用者の利便を図っているとはいえない、HPの自治体間格差が大きい等々、まだまだ問題点も多いことがわかった。詳しくは後日発行される報告書をご覧ください。

1 調査研究に参加して

◆会員係

関連のHPはかなり充実した印象。PCに向かった時間と印刷した資料の多さに反して満足いく報告が出来ず残念。対象が育児支援内容ではなくてHPの充実度なのも作業の混乱のもと(?)色々と大変でした。

◆講座・見学会

子育て支援策はプログラムとしては充実してきているようにみえます

が、必要なときにすぐに支援を得ることができるか等、そのシステムが現実にとのように機能しているかを知りたいと思いました。

◆バザー係

PC検索による情報調査でしたが核家族化の定着、専業主婦の減少、少子化対策に向けて、子育て支援への窓口は開かれていると感じました。

個人情報保護のため画面上から詳細が得られないのは残念でした。

◆ともしび係

各自治体が様々な支援策を設けておりパソコンを通して情報を得て、その上で直接コンタクトを取ることがよ強度なサポートを得られることがよくわかりました。

「日本・中東女性交流」

参加報告

支部長 佐々木 澄子

第十七回日本中東女性交流(日本・ヨルダン・エジプト・パレスチナ)が二〇〇六年二月十一日、十八日まで東京と岡山で行われた。

東京支部はこれまでJAUW中東女性交流との共催講演会(講師山口みつ子氏、塩尻和子氏)を行い中東への関心を高めて来たが、二月十三日津田塾会本館での大会「女性のエンパワーメントー技術・職業教育」に参加した。

今年度、東京支部は調査研究として二〇〇三年度全国セミナーで発表された「東京都の子育て支援の実態」(ICTを使って)の追跡調査を行い、二年後にどのような変化・進歩がみられたかを支部委員参加の十数回の集まりでまとめてきた。その結果を視野に中東代表に対し「女性の就業と子育て、とくに子どもたちの保育との両立。また公的な子育て支援策の現状と支援システムの情報開示の現状」について、遠藤理枝会員が支部代表として質問し、日本と中東各国との違いを知ると共にお互いの理解も深めた。

また当日の会場係として実行委員は勿論、支部委員全体がそれまでの準備を含め的確に行動し、大会の運営がスムーズに行われ成功裡に終えることができた。十年に一度の担当団体として、このような国際交流の場を得られたことは、非常に得難い経験であった。

〔JAUW・日本・中東女性交流
東京支部 共催〕

(05・10・24)

イスラム法と女性の自立

講師 塩尻 和子氏



イスラム法の下に暮らす女性に自立の機会はあるのであろうか。素朴な疑問を抱えて出席した私たちに、先生は詳しいレジュメを用意して、わかりやすくお話ししてくださいました。①イスラム法とは ②クルアーンの理念とイスラム法の関係 ③イスラム世界の女性の現状 ④女性の役割。

イスラム法（シャリーア）は、人間の行為全般にわたる神の指針であり、戒律である。その立法の源となるのは、1、クルアーン（永遠の神の言葉）2、スンナ（預言者ムハンマドの生前の言行録）ハディースか

ら得られる知識）3、イジュマ（信徒の見解の一致、現実には法学者の見解の一致）4、キヤース（法学者による類推）の4点である。

クルアーンでは、男女は共に自由で平等であり、正義のために戦うパートナー同士である。天国で禁断の木の実を口にしたアダムとイブも共犯者として楽園から追放され、その罪も追放という罰で清算されている。

しかし、預言者ムハンマドの死後二百年以上を経て編集されたハディースでは、原初の女性（ハウワー）に人間界の罪を負わせ、女性を理性と倫理的責任が欠如した無知な存在として描いている。また、イスラムが体制化していく課程で、女性には妻となり、母となるという生物学的な役割が固定されるようになった。

現在、最も戒律のきびしいサウジアラビアの女性も医者、銀行家、投資顧問として活躍しているが、貧富の差が大きい国や地域が多く、富裕層の高等歴の女性が、貧困層の女性に家事や育児を支援してもらいキャリアウーマンとして働いている。貧富の差という二重構造によって女性の進出が支えられているのが現状だ。過激な宗教復興運動や急速な近代化、グローバル化の波の中で男性が

働いているイスラム社会で、女性が宗教的、伝統的な仕事で役割を果たしていることは注目したい。すばらしい理念と苛酷な現実。日本の女性にも、別な側面から突きつけられている共通の問題があると思った。

（福田 文子）

映画「亀も空を飛ぶ」を見て

イラク戦争と子どもたち

（於・岩波ホール）

ーあらすじー

二〇〇三年春。イラク北部クルドイスタン地方。子どもたちはリィダー格の少年サテライトを中心に地雷を掘り、うまい駆け引きで国連に売って生活費を稼いでいた。アメリカ軍の動きを知りたい村の長老たちは衛星放送を受信することを思いつくのだが自分たちは何もせず、バラボラアンテナを町まで買いに行くのもそれを建てるのも子どもたちであった。英語がわからないのでニュースを受信しても何の役にも立たなかったのだが。

ある日赤ん坊を連れた少女と両親のないその兄が難民として村にやって来た。かたくなに心を閉ざした少

女にサテライト少年は恋をする。そしてその兄は予知能力を持つ少年だった…。

この映画は戦争で荒れたイラクの地でたくましくかつ助け合って生きる子どもたちを暖かいまなざしで描いたもので二〇〇五年ベルリン映画祭の平和映画賞、二〇〇四年サンセバスチャン映画祭のグランプリなど二八もの賞を得ています。



テレビ、新聞などのマスメディア報道ではわからないイラクの日常生活が描かれ、大人の視点に立つマスメディアに対して子どもとしてのイラクの現実が子ども視線で伝

えられています。イラクの子どもたちの生きる力に幸あれと願います。空の青さと子どもたちの優しさが印象に残りました。

（編集部）

※岩波ホールのチケットは事務所取扱っています。（財務委員会）

〈東京支部会員エッセイ〉

スリキニヤン
四姑娘のお花畑

根岸 愛子

2005年7月、中国四川省の四姑娘山麓のケシを見に行った。講師とガイドを含めて12人、それだけが目的の短い「花の旅」だ。

北京經由成都まで飛び、バスでその日の内にパンダの保護地区で有名な臥龍に入り1泊。翌日巴朗山の峠(4200m)を越えて日隆(3200m)まで1日中花の観察と撮影を楽しむ。道はほとんど舗装され、ホテルも思ったより快適で高山病にもかかわらず無事帰ることができた。

天候が不順で雨が多いところだが幸運にも快晴にめぐまれ四姑娘山(6500m)をめぐる山々の雄大な風景を堪能した。臥龍付近の溪流沿いの道では僅かな畑にキャベツや白菜が転がり、シモツケやガクアジサイが自生していて日本を思わせる。登るにつれて針葉樹が多くなるが、こちらのカラマツは枝が垂れていて興味深かった。さらに登るにつれ、視界が開け、四姑娘が姿を現す。快晴の青空に、氷に覆われた山が夢のように浮かび感動した。



山は朝の光に輝く四姑娘山
撮影・根岸 愛子

お目当てのケシ(メコノプシス)は5種類も見ることができて大満足。青だけでなく、黄、赤、紫もあり、一度にこんなに見られたのは幸運だった。次に多いのはサクランボ、白、黄、ピンク、濃いピンク、紫と多彩だ。シオガマ、フウロ、アツモリソウなど日本の高山地帯でよく見られる花も多い。私の「花の原生地を訪ねる世界の旅」は尽きない。



黄色いケシ(メコノプシス・インテグ
リフオリア) 撮影・根岸 愛子

〈東京支部主催見学会〉

(05・6・29)

日本銀行(旧館本館) 見学会

片柳 洋子



当日小雨にも拘わらず、見学会は四十八名もの参加で行われた。

ベルギーの中央銀行の建物を手本にしたネオバロック建築の本館は、江戸時代の金座跡に建てられ、国の重要文化財に指定され、一階の営業部分は昭和四十四年、地下金庫は平成十六年まで使われていたようだ。日本全銀行の取りまとめ役、日本の経済健全化の為に金融政策実施、お札発行等々の日銀の仕事内容への興味もさることながら、建物本体が歴史を刻み、見学に値する。

中庭は、昔お客が馬車でお金を運んでいたため、その荷の積み下ろしに利用され、馬の水飲み場や、今は

トイレになっている馬小屋もその面影を残している。

地下金庫の英、米、日製の三つの重々しい扉、その地下金庫から二階総裁室に至る八角形の部屋、総裁室のドーム型天井、英国から取り寄せた二階への階段、そして二階廊下に飾られた歴代二十九名の総裁の姿、すべてが案内嬢の流暢な説明も相まって興味深かった。

福井俊彦現総裁が、我が出身高校の大先輩であることが、一層の興味を持った一因であったとも言える。



〈東京支部講演会〉

(05・9・27)

薩摩琵琶と二十五絃箏の会

講師 荒井 靖水氏
美帆氏



九月二十七日に薩摩琵琶と二十五絃箏の会が津田ホール二階で開かれました。多数の会員が出席され、演奏者は荒井靖水氏、荒井美帆氏ご夫妻でした。靖水氏は六歳から祖父中谷襄水、母荒井姿水に薩摩琵琶を習い、洗足学園音楽大学卒業後は、古典と現代邦楽を中心に他ジャンルとの競演などで活躍しています。美帆氏は七歳から箏、二十五絃箏、三絃を師事、二十二歳で生田流箏曲の師範免状を取得し、立教大学の日本文学科卒業後、後進の指導やほかの邦

楽との競演などで活躍しています。

演目は「春宵」「平家物語―壇ノ浦」「忘れ水」の三曲でした。「平家物語」は昔ながらの語りと琵琶の演奏でした。「春宵」と「忘れ水」はご夫妻の作品で、薩摩琵琶と二十五絃箏の合奏曲でした。二十五絃箏は音域を広げた箏です。「春宵」は、玄宗皇帝と楊貴妃の恋とその後を表現した曲で、「忘れ水」は、野中に人知れず絶え絶えに流れる水の物悲しさと力強さを表現した曲です。アンコールは坂本龍一氏作曲「戦場のメリー・クリスマス」でした。若いご夫妻の清々しい演奏を聴いて、楽しい午後の一時となりました。(安広ふじ子)

科学研究奨励委員会

〈東京支部 お茶の水女子大学 共催

(05・12・10)

創業基礎科学にむけた有機化学

―「くすり」ほどのように創られるのか―

講師 中川 昌子氏

平成十六年十二月十日(土)の午後、十四時から約二時間にわたり、科学研究奨励委員会・東京支部・お茶の水女子大学の共催で、第五回自然科学講演会がお茶の水女子大学理



学部会議室において行われた。銀杏の大きさが冬の陽光に映え、足元は黄金の絨毯を敷き詰めたような美しいキャンパスである。

今回の講師は科学研究奨励委員会委員の中川昌子先生。永年千葉大学薬学部で教育・研究に尽くされ、現在も神奈川大学において精力的に後進の指導にあたっておられる先生のご講演は大変迫力のあるものだった。「くすり」は私達の生活の中でごく身近なものであり、時には非常に重要な役割を果たすが、なぜ効くのか、どのようにして創られるのか、薬が生まれる背景にはどんな科学があるのかなど、あまり注意を払わずに服用している。ご講演はまず薬の歴史をたどり、天然物(動植物)から病気の治癒に役立つものを探し出して記録にとどめた中国の「神農

本草経」の話、天然物から有効な成分を抽出した十九世紀の創薬の始まり、さらに効果を増強し副作用を低減する化合物の開発など化学の努力を概観された。薬の歴史は同時に病原研究の歴史でもある。病気は古くは悪霊の仕業とされたが、十九世紀に入り病気とその対処の研究が急速に進んだ。パストールやコッホらにより病原性微生物の存在が明らかになったこと、薬をめぐる合成化学の技術が急速に発展して各種の新薬が開発されたこと、さらには遺伝子工学の発展により病原に対処するだけでなく各個人の病気のメカニズムを考慮した創薬が研究されていることなど、創業基礎科学の著しい進展の現状を話された。ご講演ではこのような研究の発展を支えている薬学教育の現状についてもふれられた。実験を伴う教育は、教育効果を上げるためにも安全教育のためにも充実した設備が望まれるが現状は決して満足なものではない。薬学卒業生の多くが企業・研究施設で発展著しい創業基礎科学に従事しており、女子学生が一時的に仕事を離れても専門性を生かして復帰し活躍している様子を話され、心強い思いであった。(平川曉子)

(平川曉子)

〈東京支部講演会〉

(05・12・1)

「目は口ほどにものを言う」

講師 山森 直子氏

人間の目の虹彩(黒目)は、指紋と同じ様に一人一人違っており、個人の特定に利用されている。又足の裏のつばの様に、場所によって全身の肉体的、精神的状態を表しているとの事です。今回は主に後者の話でした。

虹彩に光を当てて、瞳孔の縮む時間、戻る時間でその人のストレス度が分かり、左脳、右脳の働きも分かる事から本来の性格が分かり、職業選択の参考にする事が出来る、ドラッグの使用の有無の検査にも利用する事が出来るとの事でした。あの小さい虹彩の中にそれだけの情報が隠されているというのは驚きでした。

お話を伺いながら一人ずつ検査をして頂き、あらストレス度が高いとか意外と低かったわとか、今の体調はこうですから大事にして下さいとか、隠されていた性格、向いている仕事とか指摘され、納得する事も多かった様でした。

最近では一部の大学や医院、ポリング場にも設置されるようになってきているようですが、もっと身近かなものになり気軽に利用する事が出来るようになれば、体調のチェックや就職の時の役に立つ事も多くなる事でしょう。

たかが目ん玉、されど目ん玉です。

(森川淳子)



私たちのサークルに
入りませんか?

「フラワーデザインの会」

山崎 邦子

早春のまだ外は寒い時期に、事務所の一室は春の花の色香に包まれます。また、クリスマスシーズンにはリースを作る樅の葉の香りで一杯になります。

フラワーデザインのサークルは六年前に、東京支部の会員の親睦と支部の活動資金調達の一助になればと、河井尚子会員を講師に始められ今日に至っております。

毎月第三火曜日の一時半よりメンバーが集まり、講師の説明を聞き思いおもいにお花を活けはじめます。出来上がりは十人十色。同じ花材でも、それぞれ趣の違った形に仕上がります。それに講師の適切なアドバイスと助けが加わりぐっつと見栄えのするものになるから不思議です。最後に皆でお互いの作品を鑑賞するのも楽しい一時です。

毎回出会う季節のいろいろなお花に癒され、メンバー達の明るい笑い声や言葉のやりとりで人と人の輪が広がります。

更に、お花を素材にそれぞれが試行

錯誤してデザインするということは、脳細胞の活性化に繋がるそうです。お花が好きなら、お花を家に飾りたい方、私たちのサークルにいらっしやいませんか。いつでも大歓迎です。



会員増加へのご協力をお願い
東京支部の会員が減少して
おります。ご家族やご友人への
誘を是非お願いします。
東京支部主催の行事・講演
会・見学会・サークルにお誘い
ください。



新春の集い 国内奨学金贈呈式

(06・1・7)

松納めの一月七日、「新春のつどい」が京王プラザホテルで開催された。若い優秀な才能の支えとなることで「明るい気持ちで新年を迎えることができた」と語られた今井会長の挨拶に続き、二〇〇五年度国内奨学金贈呈式が行なわれた。

受賞者は一般奨学生六名(内ル・ホームズ奨学生一名)、安井医学奨学生一名、社会福祉奨学生二名の計九名。この内七名が出席され、昨今の厳しい世相の中にあっても、目的をつかんだ力強いスピーチは明るい未来を予感させた。

いずれのテーマも、日本が今必要性に迫られているものである。「日本人移民・日系人にとつての『国家』の研究」「十八世紀フランス・ロココ美術の挿絵画家の研究」「ブラジルのストリートチルドレン支援を国際福祉の視点で見る」「十九世紀ヨーロッパ社会状況とシヨパンの創作活動との関係」の四テーマは国際化。そして「震害分析法の研究」「薬物依存治療薬の開発」「バルツ磁気刺激法の研究」の三テーマは耐震と健康。

社会福祉奨学生の大嶋かず路さんは、受賞の知らせを取材中のパリーで受け取った時の、驚きと喜びと責任感とを熱く語られた。

春の訪れを思わせる、澄み切った音が対話するような頼川晴子さんのヴァイオリンと佐藤千佳さんのピアノのデュオコンサートでホッと一息。「すべての人に学ぶ機会を」その言葉は光でした。これは会場で配られた「未来に向かって翔ぶ」(社会福祉奨学生の手記)の一文である。息を呑むほどの感銘を受け、改めてこの事業の意義をかみしめた。

(桑折 美子)



※この奨学金の一部として東京支部から十万円を寄付しています。

サークル紹介

英語講座

- 第一・第三金曜日

午前十時～十二時

- 大久保地域センター三階

- 講師・松本節也元法政大学教授

- 「さし絵入り英国史を講読中。

講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに

輪読しています。

メンバーを若干名募集中です。

- 連絡先・中山正子

(☎〇四五―五四一―二四八二)

楽しい俳句会

- 第三水曜日 午後一時半～三時半

- JAUW事務所会議室

- 講師・柴崎富子会員

柴崎先生の熱心なご指導のもと楽しく俳句を作っています。

メンバーを若干名募集中です。

- 連絡先・小池朋子

(☎〇四五―九〇二―九七三〇)

源氏物語を読む会 (I)

- 第三・第四水曜日

午前十時半～十二時半

- 津田塾大学同窓会・会議室

- 講師・坂上栄美子会員

「御法」の巻を読んでいます。もうすぐ「宇治十帖」に入ります。若干名募集中です。

- 連絡先・平田宏子

(☎〇四一―七二四―三二一五七三)

源氏物語を読む会 (II)

- 第二・三・四火曜日

午前十時～十二時

- 津田塾大学同窓会・会議室

- 講師・坂上栄美子会員

「柏木」の巻を読んでいます。

- 連絡先・中山律子

(☎〇三一―三三三―六四六二八)

フラワーデザイン

- 第三火曜日 午後一時半～三時半

- JAUW事務所会議室

- 講師・河井尚子会員

初心者歓迎、お花と向き合う時間を楽しみましょう。

若干名、余裕があります。

- 連絡先・山崎邦子

(☎〇四五―八八一―九〇〇二)

☆会員相互の親睦をはかるために、どのサークルも和気あいあいと楽しく活動しています。まだ、余裕があるところもありますので、ご入会希望の方は、係までご連絡下さい。

2006年 東京支部総会のお知らせ

- ・四月十五日(土) 一時～二時
- ・津田ホール内会議室
- ・記念講演 二時半～四時
- ・ジエンダー・叩きの背後には
- ―子育て支援策の視点から―
- 講師 藤原 房子氏/評論家

【講師紹介】

消費者・女性問題など多方面で活躍中の評論家。東京女子大学卒業後、日本経済新聞社に初代女性記者として入社。社会部、編集局・婦人家庭部を経て94年退職。前職日本女性学習財団理事長。

著書は多数で「手の智慧」では第一回サントリー学芸賞を受賞。その他「大きな歯車のはざままで」教育が残し得たもの」ドメス出版、「母の台所娘のキッチン」新潮社等。

―自治体の子育て支援策に関心を向けています。理念はともかく具体的には、従来の性別役割分業への拘りや、労働力不足への対応など矛盾する要素をはらみながら、施策をどう生かせるかが課題です。そこにジエンダーへのバックラッシュが重なるのを考えましょう。―とのメッセージをいただいております。

大学婦人協会「名称変更」アンケートの結果をお知らせいたします。

(会員454名に発送。回答は163名で、回収率36%)

賛成……………95名 (59%)

反対……………41名 (25%)

どちらでもない…27名 (16%)

(どちらでも良いを含む)

☆主なる意見をまとめ、本部に報告しました。

東京支部委員会

2005年度東京支部新入会員 (敬称略)

(2006年1月現在)

氏名	出身校	氏名	出身校
川芳子	日女・東工院	小館和子	日女・筑院
多郁子	津・院	高梨純子	和洋女・院
田美恵	大東津	土信田美砂	共茶慶・専院
大竹衣子	外・津	中問村美子	共茶慶・実院
冠山木子	茶慶院	中沼上芳江	共茶慶・一院
久保田久枝	茶慶院	樋田夏由紀	津・橋院
熊坂弘子	茶慶院		
紅林のり	大慶女		

謹 弔 (敬称略)

氏名	出身校	訃告
永峰すみ	聖	2004年11月8日 ご逝去
荒井佐念子	聖・ソルボンヌ	2004年12月8日 ご逝去
田律子	津	2005年4月11日 ご逝去

※記念講演には会員外の方も多数お誘い下さい。参加費無料。
※総会のお知らせは別途郵送致します。

★ご寄付いただきました。お礼を申し上げます。

熊切富子氏

一万円

住友千代子氏

五千元

源氏物語を読む会(Ⅰ)

五万円

源氏物語を読む会(Ⅱ)

五万円

フラワーデザイン

一万円

楽しい俳句会

一万円

英語講座

五千元

★寄付しました。

国内奨学金

十万円

国連難民高等弁務官事務所

五万円

★会費納入のお願い

会費未納の方は、用紙の裏の「払い込みのご案内」を参照の上、早めにお振り込み下さい。

★住所変更などのご連絡は事務所までお願い致します。

★使用済みの切手、プリペイドカードなど事務所までお送り下さい。

〈編集後記〉

弥生三月旅立ちの季節、皆様の御協力で39号を無事発行することができました。会員の御一人御一人に春が訪れますように。